

ヒヨドリ *Hypsipetes amaurotis* (鶯)

桜の花の蜜を吸う

(撮影：戸谷)

## 識別のポイント

- ・全身灰色で尾が長く、地面に対し垂直にとまる。
- ・「ピーヨ、ピーヨ」とけたたましく鳴く。

大きさ：ハトより小さい

生息環境：低地～山地の木のあるところ

繁殖場所：樹上

餌：昆虫、果実、花の蜜など

鳴き声：「ピーヨ」「ビッキョルル」など変化に富んでいる

天竜川における生息時期

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12月

繁殖期

渡り区分：留鳥

## 一般習性・分布

- ・留鳥として低地から山地の林に数多く生息する。またまった木があれば、都市の公園などにも多い。冬にはかなりの数が南へ移動するが、越冬するものも多い。
- ・昆虫や木の実をよく食べるが、甘いものも好きで、花の蜜や熟したカキなどに集まることも多い。
- ・「ピーヨ」とヒステリックに聞こえる声で鳴くことが多いが、さえずりと思われる声は軽やかで、他にもさまざまなリズムで鳴く。

## 天竜川上流における生息状況

留鳥として全域で見られるが、冬は少なくなる。また、木の少ない河原ではあまりみられない。春先にはヤナギの新芽や花をついばむ姿が見られる。中でも飯田市川路付近は、広いベルト状のヤナギ類の林があり、ヒヨドリをはじめ、数多くの鳥が餌場、繁殖場として利用している。

## 天竜川上流における分布



モズ *Lanius bucephalus* (百舌)

(撮影：戸谷)

## 識別のポイント

- ・長い尾をゆっくりと振る。
- ・秋から冬に「キィキィー、ギチギチ」などとさえずる。

大きさ：スズメより大きい

生息環境：低地～山地の草原や耕作地

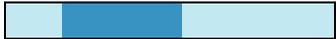
繁殖場所：樹上

餌：昆虫、カエル、トカゲ、小鳥、小型の哺乳類、木の実など

鳴き声：「ジュン、ジュン、ギチギチ…」など

天竜川における生息時期

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12月



繁殖期

渡り区分：留鳥

## 一般習性・分布

- ・留鳥として低地から山地の草原や河原、林縁部などに生息するが、繁殖期には標高の高いところへ移動するものもいる。
- ・捕らえた獲物を小枝や鉄条網の針、ハリエンジュのとげなど、とがったところに刺しておく習性があり、これを「モズのはやにえ」という。この習性は、かつては貯食行動と考えられていたが、必ずしも後で食べるわけではなく、はっきりとした理由はわかっていない。
- ・基本的に肉食であるため、冬場は厳しい食糧事情となることから、繁殖期が終わると1羽ずつなわばりを持つ。
- ・他の鳥の声を真似るなど、さまざまな鳴き方をするので「百舌」とも書く。

## 天竜川上流における生息状況

留鳥として広い河川敷を持つ区間に、普通に生息する。カワヤナギの茂みの中の、地上1～2m程度の樹上に巣があることが多い。

## 天竜川上流における分布



カワガラス *Cinclus pallasi* (河鳥)

(撮影：山上)

## 識別のポイント

- ・全身こげ茶色で、尾が短い。
- ・水中によく潜る。
- ・「ピッ」と鳴きながら直線的に飛ぶ。

大きさ：ハトより小さい

生息環境：河川の上流部

繁殖場所：水際の岩のすき間、滝の裏など

餌：水生昆虫、陸上昆虫など

鳴き声：「ピッ」など

天竜川における生息時期

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12月

繁殖期

渡り区分：留鳥

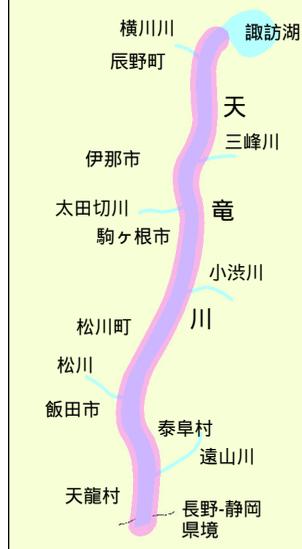
## 一般習性・分布

- ・留鳥として低地から山地の渓流、渓谷に生息するが、秋から冬にかけて下流へ移動する個体も多い。
- ・流れのある水中に潜り、川底を歩いて水生昆虫などを食べる。日本ではこのような餌の取り方をする鳥は他にいない。河岸で陸上昆虫を食べることもある。
- ・堰堤の穴などで営巣することが多い。
- ・水面上に出た石の上で「ピリ、ピリ、ジョビスビビ…」などと複雑なさえずりを行い、真冬にも聞かれる。普段は「ピッ」と鳴きながら、河道に沿って直線的に飛ぶことが多い。

## 天竜川上流における生息状況

留鳥として、主に渓谷状の区間とその周辺に生息するが、春から夏は数が少なく、秋から冬に全域で多く見られるようになる。天竜峡や松川町鶴部、飯沼橋周辺、駒ヶ根市北の城周辺では繁殖しているものと思われる。

## 天竜川上流における分布



ジョウビタキ *Phoenicurus aureoreus* (上鷦)

オス



(撮影：戸谷)

## 識別のポイント

- ・オスは腹がオレンジ色で頭が銀色。オスもメスも翼に白い斑がある。
- ・「ヒッ、ヒッ、カッ、カッ」と鳴く。

大きさ：スズメと同じくらい

生息環境：市街地、集落、河川敷など

繁殖場所：(日本では繁殖しない)

餌：昆虫、木の実など

鳴き声：「ヒッ、ヒッ」「カッ、カッ」など

天竜川における生息時期

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12月

渡り区分：冬鳥

## 一般習性・分布

- ・冬鳥として市街地や低地から山地の明るい林、低木のある林縁、河原に渡来する。単独で行動する。
- ・昆虫や植物の実を食べる。
- ・直立した姿勢でとまり、お辞儀をするように頭を下げ、尾を細かくふって、「カッ、カッ」と鳴く。
- ・秋にはオスもメスも「ヒッ、ヒッ」と鳴くが、冬はあまり鳴かない。3月の渡りの時期には、小さな声ながら美しくさえずる姿も見られる。

## 天竜川上流における生息状況

冬鳥として全域で見られる。林縁部やハリエンジュがまばらに生えた河川敷などを好む。ヒタキ類では他に、亜高山帯から高山帯で繁殖するルリビタキが、森林に接した区間で越冬する。地鳴きがよく似ており、特にメス同士は姿も似ている。

## 天竜川上流における分布



ツグミ *Turdus naumanni*(鶉)



(撮影: 松村)

識別のポイント

- ・胸にこげ茶色のうろこ模様がある。
- ・「ケーケー」と鳴き、地上で餌をとることが多い。

大きさ：ハトより小さい

生息環境：低地～山地のまばら樹林、耕作地など

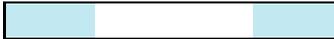
繁殖場所：(日本では繁殖しない)

餌：木の実、ミミズ、昆虫など

鳴き声：「ケーケー」など

天竜川における生息時期

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12月



渡り区分：冬鳥

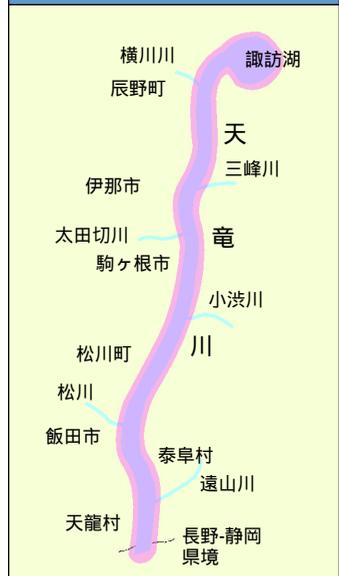
一般習性・分布

- ・日本には冬鳥として大きな群れで渡来し、低地から山地のさまざまな環境に広く生息する。
- ・地上を、両足をそろえて跳ねるように歩きながら餌をとる。落ち葉などをくちばしで跳ね上げて、休眠中の昆虫を食べることも多い。
- ・飛び方は直線的で、飛び立つときに「ケーケー」としゃがれた声を出すことが多い。

天竜川上流における生息状況

冬鳥として全域で見られる。滞在期間は年によって異なるが、11月頃から翌年の4月頃まで滞在することが多い。ハリエンジュ林などに10数羽が集団で休んでいることもあるが、普通は単独でいる。

天竜川上流における分布



ウグイス *Cettia diphone*(鶯)



(撮影：山上)



巢

(撮影：腰原)

識別のポイント

- ・「ホーホケキョ」と鳴く。
- ・ヤブの中を「ゼツ、ゼツ」と鳴きながら動き回る。

大きさ：スズメと同じくらい

生息環境：低地～亜高山の森林、ササヤブ

繁殖場所：森林内の低木の樹上など

餌：昆虫など

鳴き声：「ホーホケキョ」「ケキョケキョケキョ...」「ゼツ、ゼツ」

天竜川における生息時期

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12月



繁殖期

渡り区分：留鳥

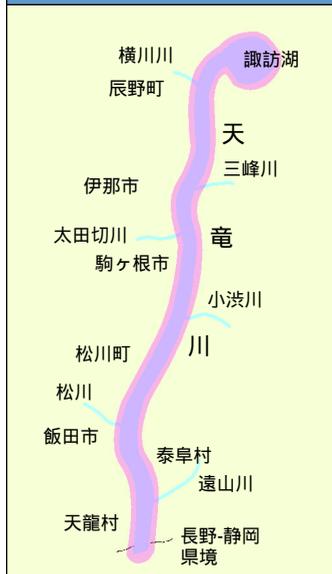
一般習性・分布

- ・低地から山地のササヤブのある低木林、林縁などに生息する。
- ・さえずりはよく知られた「ホーホケキョ」であり、そのほかに谷渡りといわれる「ケキョケキョケキョ...」と長く続ける声がある。これは繁殖期における警戒の意味を含んだ声ではないかと考えられている。地鳴きは笛鳴きと呼ばれ、「ゼツ、ゼツ」という声である。一つ一つの鳴き声に呼び名がついているのは、古くから日本人の間で鳴き声を鑑賞する習慣があった証拠である。
- ・一般に言われる「ウグイス色」とはメジロの羽色で、実際のウグイスは全身うすい褐色の目立たない羽色である。

天竜川上流における生息状況

繁殖期は森林に接した区間の、かん木やササの密生したヤブで繁殖し、秋から冬は開けた河川敷のヨシ原やヤナギ林でひっそりと生活する。

天竜川上流における分布



オオヨシキリ Acrocephalus arundinaceus(大葦切)



さえずるオス

(撮影：戸谷)



メスとヒナ

(撮影：山上)

<b>識別のポイント</b>	・ヨシ原で赤い口を大きく開いて「ギョギョシギョギョシ、ケケケ…」などとけたたましくさえずる。夜中もさえずる。
----------------	--

<p>大 き さ：スズメより大きい          生息環境：水辺や湿地のヨシ原          繁殖場所：ヨシ原内のヨシの茎上          餌：昆虫など          鳴き声：「ギョギョシケケシケケ…」など</p>	<p>天竜川における生息時期</p> <table border="1"> <tr> <td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td><td>9</td><td>10</td><td>11</td><td>12</td> </tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> </table> <p style="text-align: center;">繁殖期</p> <p>渡り区分：夏鳥</p>	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12												
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12														

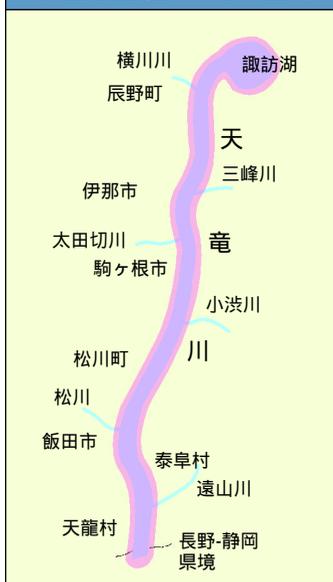
一般習性・分布

- ・夏鳥として水辺のヨシ原に生息する。全国的にヨシ原が減少しつつあり、それにともなってオオヨシキリの生息地も減っている。
- ・数本のヨシの茎の間にイネ科植物の茎、枯葉、根などを使ってコップ状の巣を作る。ヨシの他にツルヨシ、オギなどにも営巣するが、茎の太さや群落の構造などから、ヨシが最も適していると考えられている。
- ・繁殖は、一夫多妻で行うことが多い。
- ・オスはヨシの茎やヤナギの木にとまってけたたましくさえずる。
- ・餌はヨシ原のまわりの畑や水田、草地、ヤナギ林などで、主として昆虫を捕らえる。

天竜川上流における生息状況

夏鳥としてヨシ原のある場所に渡来して繁殖する。大部分がツルヨシであるが、まとまったヨシ原は飯田市川路付近に見られ、さえずるオスの数も多い。通常、4月下旬から7月までさえずりが聞かれる（P.94参照）。

天竜川上流における分布



## コラム ヨシ原の鳥 - オオヨシキリ

オオヨシキリはスズメよりも少し大きめの鳥で、4月下旬に夏鳥として渡来してきます。伊那谷では別名『ヨシワラスズメ』と呼ばれています。これは、この鳥の生息環境をよく表しています。オオヨシキリはヨシ原と密接に結びついて生きている鳥なのです。

伊那谷を流れる天竜川には、諏訪湖から天竜峡にかけての広範囲にヨシ原が点在しています。天竜川におけるオオヨシキリの分布は、広い面積を持つヨシ原の分布と一致しています。例えば、箕輪町の十沢橋や伊那市の新水神橋、駒ヶ根市の北の城橋、天竜大橋、高森町の明神橋、飯田市の川路といったヨシ原で多くのオオヨシキリを見ることができます。また、ヨシ原がまとまって残っている場所であれば伊那市街地のような所でもオオヨシキリの鳴き声を聞くことができます。一方、渓谷部が多い天竜峡以南の天竜川では、ヨシ原が発達しにくいので、泰阜村の温田のみに少数のオオヨシキリが生息しています。

1950年代には、オオヨシキリが生息するヨシ原は、天竜川に注ぎ込む支流や山麓部の遊水池にもありました。そして、そこでは毎年、オオヨシキリの鳴き声を聞くことができました。それが現在では、天竜川や三峰川といった大きな河川を中心とした場所にしか残っていないわけです。

天竜川に広がるヨシ原にちょっと足を運んでみて下さい。きっと、ヨシの枝先でさかんに鳴いているオオヨシキリに出会うことができます。

(吉田保晴)



オオルリ *Cyanoptila cyanomelana*(大瑠璃)

オス



(撮影: 戸谷)

## 識別のポイント

- ・オスは頭から背中にかけてるり色で、腹が白い美しい鳥。
- ・溪流沿いに多い。

大きさ: スズメくらい

生息環境: 低地～山地の谷沿いの林縁部

繁殖場所: 森林内の岩の間など

餌: 昆虫など

鳴き声: 「フィーリーー」など

天竜川における生息時期

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12月

繁殖期

渡り区分: 夏鳥

## 一般習性・分布

- ・夏鳥として山地の林に生息し、特に溪流に沿った林に多い。
- ・枝先から谷間の上空に飛び出し、空中を飛ぶチョウ、ガ、アブなどを捕らえる。
- ・「フィーリーー」という尻下がりの音を基本に、いくつかのフレーズを織り交ぜながら美しい声でさえずる。さえずりの最後に「ククル…」というパチンコ玉を打ち合わせたような音が入るのが特徴である。

## 天竜川上流における生息状況

夏鳥として山地の森林内に生息する。平岡ダムから泰阜ダム周辺、天竜峡、松川町台城、吉瀬ダム周辺、飯島橋周辺、駒ヶ根市北の城などでは5月から6月頃、さかんにさえずる声を聞くことができる。

## 天竜川上流における分布



エナガ *Aegithalos caudatus* (柄長)

巣の中のヒナに餌を与える親鳥

## 識別のポイント

- ・体は丸く小さいが、尾が長い。
- ・繁殖中以外は常に群れで行動する。
- ・「チュルル、チャッ」などと鳴き交わす。

大きさ：スズメより小さい

生息環境：低地～山地の樹木のある所

繁殖場所：森林内の樹上

餌：小昆虫、クモなど

鳴き声：「チュルル、チャッ」など

天竜川における生息時期

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12月



繁殖期

渡り区分：留鳥

## 一般習性・分布

- ・留鳥として低地から山地の林や低木林に生息する。繁殖期の間を除いて常に群れをつくって行動する。
- ・細い枝の間、幹の又などに、多量のコケ類をクモの糸で固めてだ円形の巣を作る。
- ・体を左右に動かしながら身軽に枝移りして小さな昆虫を捕らえる。細い枝にぶら下がったり、木の幹に縦にとまったりする。
- ・秋から冬にかけて、カラ類（シジュウカラの仲間）、コゲラ、メジロなどと混群を作ることが多い。

## 天竜川上流における生息状況

留鳥として全域に生息する。広いヤナギ林やハリエンジュ林のあるところで繁殖している。飯田市川路では、河川敷内のヤナギの樹上高さ約3mの所に営巣していた。

## 天竜川上流における分布

